

平成30年8月定例教育委員会会議録

1. 開催日時 平成30年8月23日(木) 10時00分～12時41分
2. 開催場所 日野町役場別館研修室
3. 出席委員 今宿綾子教育長、西村吉弘教育長職務代理者
山田めぐみ委員、高橋政宏委員、谷 信代委員
4. 出席事務局員
教育次長 : 望主 昭久
学校教育課: 参事 山添 美実 参事 吉澤 増穂
生涯学習課: 課長 日永 伊久男 参事 加納 治夫
図書館: 館長 高浪 郁子
子ども支援課: 課長 宇田 達夫

今宿 教育長	ただ今から日野町教育委員会定例会を開会します。 本日の会議につきましては、傍聴の希望がありましたのでこれを認めております。また、傍聴者から会議における写真撮影を希望されています。これにつきましては、委員の皆様にお諮りしたいと思いますが、ご意見ございますか。
高橋 委員	写真撮影につきましては私の顔が掲載されないことがないよう、写らないようお願いしたいと思います。
今宿 教育長	他の委員さん、ご意見ありますでしょうか。
山田 委員	写真撮影についてはしてはならないという決まりはあるのでしょうか。
吉澤 参事	日野町教育委員会における傍聴人規則があります。この中ではしてはならない行為が6点ありますが、写真撮影については禁止事項とはなっていないので、今回お諮りさせていただくものです。
山田 委員	規則で禁止となっていないのであれば断る理由もないので、許可してよいと思います。
西村 委員	写真撮影についてですが、ルール上禁止されていないということですので、写真撮影されることを認めて差し支えないと思いますが、会議については様々な状況が今後も予想されますので、本日この場に限ると

	<p>いうことで認めたいと思います。</p>
今宿 教育長	<p>谷委員さんもよろしいでしょうか。</p>
谷 委員	<p>はい。</p>
今宿 教育長	<p>それでは、本日の傍聴についての写真撮影は可とさせていただきます。ただし、高橋委員からは撮影については個人が判別できることは避けてほしいとご意見ございましたので、十分注意しての撮影としていただきたいと思います。</p>
今宿 教育長	<p>次に、本日の会議の進め方についてですが、議事日程を一部変更して、日程4の議事について先にご協議をいただき、その議事の終了後、前回委員会の議事録の報告、経過報告をご協議いただくよう進めさせていただきたいと考えております。このように会議を進めてよろしいか。おはかりします。</p>
今宿 教育長	<p>ご異議が無いようですので、そのように進めさせていただきます。</p> <p>それでは、日程4の議事に入ります。「議第1号 平成31年度使用小・中学校特別支援学級教科用図書および中学校（特別の教科 道徳）教科用図書の採択について」提案させていただきます。それでは事務局から提案説明をお願いします。</p>
今宿 教育長	<p>日程4 議第1号（中学校特別支援学級 道徳）</p> <p>以上、説明がございましたが、ご意見やご質問等ございましたら、お出しいただきたいと思います。</p>
谷 委員	<p>特別支援学級の道徳の教科書ですけれども、私の息子も特別支援学級にお世話になっていますので、彼が普段からどういうふうに教科書と接しているかというのを見ると、文字をただただ読んでいくというのはなかなか難しい様です。どうしてもイラストがたくさんある方が親しみやすいのだと思います。</p> <p>この4冊の本を見た感じだと、今勧められている『心のふしぎ なぜ？ どうして？』と『イラスト版コミュニケーション図鑑』は、よいと思います。</p> <p>私の子どもは情緒のクラスでお世話になっているので、また知的障が</p>

	<p>いの子どもたちとは若干違いますけれども、それでもやはり、教科書と向き合うというのはなかなか難しいものがあって、先生に声掛けしてもらって、やっと字面を追っているみたいなどころもあるので、文字がたくさん並んでいると、もうそれだけで、パッと開けた瞬間に拒否というか、「無理！」みたいな感じになってしまうので、特別支援学級の子どもたちにはやはり、文字も大事なんですけれども、興味を持ってもらえるというのが一番大事だと思うので、イラストをふんだんに使っている方が親しみやすいのかなと思いました。以上です。</p> <p>中学校の特別支援学級の道徳に、どういう教材なりがふさわしいのかということを考える前に、経験上ですけど、特別支援学級にはいくつか、知的学級とか情緒学級とかありますよね。そういう大きな枠組みの特徴を教えてください先生に知っていただいて、そしてかなり、教科書をどんなふうにして子どもたちと共有しながら進めていただけたということが一番大事だと思います。谷さんからもお話がありましたけれども、文字の量とか、そういうものも大きいと思います。</p> <p>『イラスト版コミュニケーション図鑑』はたくさんテーマと言いますか、項目がありますね。それをさらに分類していますよね。だから非常にわかりやすい、またかつ、教えられる先生にもふさわしいのではないかと思います。</p> <p>それから1年生用の『心のふしぎ なぜ？ どうして？』ですが、パッとみたところ14ページに、「人の気持ちにはどんな種類があるの？」とか、投げかけの言葉がありますよね。「苦手なことをあきらめちゃダメ」とか、非常に1年生の子にしてみたら、文字があってその横に図案がたくさんあって、子どもたちも非常に興味を持ってもらえるのではないかと思います。実際にこれを教材として教えられる先生に、昔の言葉で言いますと、教材研究にしていただけるとありがたいなと、いいなと思いました。</p>
高橋 委員	<p>中学校の特別支援学級の道徳に、どういう教材なりがふさわしいのかということを考える前に、経験上ですけど、特別支援学級にはいくつか、知的学級とか情緒学級とかありますよね。そういう大きな枠組みの特徴を教えてください先生に知っていただいて、そしてかなり、教科書をどんなふうにして子どもたちと共有しながら進めていただけたということが一番大事だと思います。谷さんからもお話がありましたけれども、文字の量とか、そういうものも大きいと思います。</p> <p>『イラスト版コミュニケーション図鑑』はたくさんテーマと言いますか、項目がありますね。それをさらに分類していますよね。だから非常にわかりやすい、またかつ、教えられる先生にもふさわしいのではないかと思います。</p> <p>それから1年生用の『心のふしぎ なぜ？ どうして？』ですが、パッとみたところ14ページに、「人の気持ちにはどんな種類があるの？」とか、投げかけの言葉がありますよね。「苦手なことをあきらめちゃダメ」とか、非常に1年生の子にしてみたら、文字があってその横に図案がたくさんあって、子どもたちも非常に興味を持ってもらえるのではないかと思います。実際にこれを教材として教えられる先生に、昔の言葉で言いますと、教材研究にしていただけるとありがたいなと、いいなと思いました。</p>
今宿 教育長	<p>今のご意見に対して、コメントはありますか。</p>
山添 参事	<p>谷教育委員さんのお子さんの実態からというようなご意見、それから、よい教材を上手に、しっかりと教材研究をすることにより大変効果が上がるという高橋教育委員のご意見は、参考にしていきたいなと思って聞いておりました。</p>

<p>今宿 教育長</p>	<p>ありがとうございます。このあとまた中学校の通常学級の道徳についてのご意見をいただきたいと思いますが、これは知的障がい学級のお子さんたちが対象でございます。</p> <p>一般図書ですので、22項目すべて系統的に網羅しているというわけではありませんけれども、その中で必要な価値を取り出し、それぞれの子どもたちの発達段階に応じて指導していただくという、学びの扉を開くものになってくるかなと思いますので、そのように選定をしていただきました。</p> <p>ほかよろしいでしょうか。</p>
<p>西村 委員</p>	<p>最初提案をいただいた時に、使用学年が1年から3年共通となっていたけれども、それが1年はこれ、2・3年はこれという具合に最終的には、確かそういう姿に落ち着いたのではないかなと思うのですがけれども、特に『心のふしぎ なぜ? どうして?』は、確かに読み物としてわかりやすいし、ただイラストがちょっとごちゃついているような感じがないこともないですけれども、必要なことは全部書いていただいているのだなと思ひまして、適切なものとして私も賛成です。</p> <p>もう1つの分厚い『イラスト版コミュニケーション図鑑』は、ある部分、後半の部分ですけど、小学生だったらこうだなと、中学生だったらこうだなというふうに書いている部分がありますね。これは大変いいと思います。例えばトラブルが生徒同士であったときに、小学生だったらこういう対応、中学生だったらこうすると、かなり具体的に書かれていますので、現場で使っていただく時に非常にいいのではないかと思います。この2点の選定について同意したいと思います。</p>
<p>山田 委員</p>	<p>私は、『イラスト版コミュニケーション図鑑』は、細かく、こうした時にはこうする、こうした場合はどうすると、いろいろなバージョンが書かれているので、子どもたちからしても身近な体験を通じての学習ができるかなと思います。『心のふしぎ なぜ? どうして?』は、視覚から訴える方が効果的だと言われているわりには、結構ごちゃごちゃ書かれているという印象を受けました。</p> <p>今、西村さんの意見を聞いていて、重要なこと、大事なことがしっかり書かれているという点でこれにされたということでしたが、そういう解釈でよいのでしょうか。もし視覚的に選ぶのだったら、こちらとか、こちらの方がすっきりしているのではないかと思います。もう少し詳しく教えてもらえたらなと思います。</p>

山添 参事	<p>1年生の段階でしっかりと、少人数の子どもたちと先生が対峙して、話し合いをしながら進めていく、考えさせたり、思っていることを先生に伝えたりする中で、こどもの理解を助けたり、考えを引き出したりするのに『心のふしぎ なぜ? どうして?』の方がより効果的であるというご意見でした。</p>
山田 委員	<p>先生と議論していくうえで、やりやすいという解釈でいいですか。</p>
山添 参事	<p>はい、子どもたちにとって、この本を活用し一緒に考えさせていく読み物教材として使うということです。</p>
今宿 教育長	<p>主に自己理解や他者理解、自然を尊ぶ気持ちが入っているものがいいということでした。</p> <p>中学校は3学年ありますので、各学年1冊ずつ別のものを選定するというのもありましたが、今回は1年生で1冊、2・3年生で1冊となりました。昨年、小学校の特別支援学級の道徳の選定につきましては、上学年と下学年と分けて2冊ずつ選定しています。子どもたちの発達の段階に差がありますので、3つに分けるというのはあまりに細分化しすぎる、かといって1冊というのはくくり過ぎるということで、2冊になりました。今年度につきましては、1年生で読み物教材、そして2・3年生でかなり厚い、図鑑的な『イラスト版コミュニケーション図鑑』となりました。これらはいろいろな場面に応じた道徳的な態度や考え方を示しているものです。</p> <p>それでは、事務局が提案しました内容で決めさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
今宿 教育長	<p>日程4 議第1号（中学校特別支援学級 理科）</p> <p>教科書をご覧いただきまして、ご意見ございましたらお願いします。</p>
高橋 委員	<p>2つの教科書をご提示いただきまして、ありがとうございます。これをお書きになっている方に対しまして、私的な感情は置いておいての話をするすと、メイツ出版の方がおもしろい内容があるのですが、理科でいうと一定の小学校あたりで発展的な学習というのでしょうか、そういうものを通してから、例えば60ページにこういうことがあるのですが、通ってからのでないとなかなか理解しにくい、先生もなかなか教えづ</p>

<p>西村 委員</p>	<p>らいのではないかと思います。</p> <p>出てくる教材はいろいろ素晴らしいものばかりで、それに対して小学館のものは非常になじみやすいテーマですね。例えば 32 ページに「見えない機械を確かめよう」とか、こういうことを言うと普通学級の子でも同じですけども、興味関心が高まるのですね。理科に関心を持つ、導入、そういうところくすぐるといえるのか、非常にいいのではないかと思います。</p> <p>そういうことに焦点を当てていろいろ出版物を出しておられるところもありますし、興味深い内容が非常に多いですね。今は特別支援学級の教科書で言っていますけれども、普通学級の理科の場合においても非常に波及効果が多い、導入として扱えるものもあるなと思いますし、適切ではないかなと思いました。</p> <p>メイツ出版の『東京理科大生による小学生のおもしろ理科実験』は、私自身が理科が得意な人間ではありませんからかも知れませんが、結構難しいなと思ひまして、タイトルには「小学生」とあるから抵抗があるということですが、中身がなかなか難しいと思ひました。</p> <p>一方、小学館の図鑑については、既にご意見が出ていますように、非常にわかりやすい、とっつきやすいところがありますが、ただ、6年生以上とか3年生以上とか、あまりきめ細かく書いてあると、それが中学生の人が読まれた時にどう思われるかなという思いはあります。しかし、小学館の図鑑は面白いなと思います。</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>日程 4 議第 1 号 (中学校特別支援学級 技術)</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>ご意見がございましたらお出しいただきたいと思ひます。</p>
<p>高橋 委員</p>	<p>1つ教えてください。新しい学習指導要領の中学校、今は「技術家庭」になっているのですか。技術は技術、家庭は家庭なんですか。</p> <p>昔から技術というのはモノづくりがありますよね。それだけでなく、土に触れるとか、畑、栽培とか、普通学級におきましてもなかなかそれが難しいことがあったわけで、逆に言うと、中学校の特別支援学級の技術で、栽培とかいうのが結構あったような記憶があるわけですけども、特別支援学級の子どもさんにはやはり身近に植物が生きているということ、触れるとことで命を感じるとかいう部分があるのかなと思ひま</p>

	<p>すが、そういう中でこの教科書ですと、また授業の中ではモノづくりとかも入れてもらえると、非常に効果的かなということを感じました。これで結構だと思います。</p>
山田 委員	<p>前の教科書が供給不能になっての代わりの本ということでしたら、こちらの方が似ているかなという気持ちでいるのですが、それをあえて『やさいのうえかたそだてかた』を選ばれたということは、何かありますか。</p>
山添 参事	<p>先ほども木工とか金工に対応するものがないということがありましたけれども、確かにモノづくりのところでは13ページを見ていただくと、「つくってみようリサイクル工作」の調査結果が出ています。図工も含めたような総合的なものとして扱えるような教科書だと思うのですが、中学校の特別支援の生徒の技術を見た時に、やはり将来にわたって何かモノづくりをする体験、収穫の喜びもふくめて「できた！」と実感できるという点から、総合的に見て「やさいのうえかたそだてかた」の方が、3年間通して効果的という部分で選んでいただいたと思います。</p>
山田 委員	<p>それなら、供給不能になった教科書の代わりという認識ではなくて、技術の教科にとってどれが一番よいかという考え方で、こちらを選ばれたということですね。</p>
山添 参事	<p>はい。</p>
今宿 教育長	<p>3年間そればかりしているわけではないので、学びの扉を開く1冊という考え方になると思います。</p> <p>リサイクルの観点での教科書が長い間使われていましたが、今回は栽培的な要素もあるのかなと思います。</p> <p>またこの教科書だけを3年間そればかりしているわけではないので、栽培活動においてはこれを参考にしながら使い、また木工とかにおいては1人ひとりの子どもの実態に応じたもの自作教材を使うこととなります。</p>
谷 委員	<p>小学校の支援学級の生徒さんたちは畑で花や野菜を育てていたのですけれども、今現在中学校の子どもたちに畑みたいな土をいじれる環境</p>

<p>今宿 教育長</p>	<p>はあるのですか。</p> <p>今回選定していただくのに、調査部会を持ってもらっているのですが、管理職の先生と実際に特別支援学級を持たれているベテランの先生方が調査部員になってくださって、それまでの実践から必要だと思う観点から選ばれています。</p> <p>その調査部員さんの声をお聞きすると、やはり土に触れた学習というのは非常に素晴らしいという、取り入れたいというお声があったということです。</p>
<p>高橋 委員</p>	<p>日野中学校の場合でも、特別支援学級の子に、それほど広くはありませんけれども畑を、栽培等ができるようなところを整備したつもりですし、活用いただいていると思います。</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>葉ボタンとかキクの栽培とか鉢植えとか、されてますね。</p>
<p>谷 委員</p>	<p>今も何か育てているのでしょうか。息子からは学校で畑作業をしたという様な話は、今まで聞いたことがなかったので、今回畑の存在を初めて知りました。</p>
<p>高橋 委員</p>	<p>1年生でされていたかどうかはちょっと、</p>
<p>望主 次長</p>	<p>中学校の支援学級の子どもが育てたハボタンを役場へ持ってきていただいたり、時期によって違いはあると思いますが、そういう取り組みもしていただいています。割合が多いのか少ないかというのはわかりませんが、実際に植物を育てられています。</p>
<p>西村 委員</p>	<p>リサイクルの方は、技術という範囲からいけば、ちょっとスケールが小さいというか、「工作」という感じですね。</p> <p>そういう意味では将来の生活に結びつくとか、自然相手だという意味合いでは、どちらかを選ぶのだったら「やさいのうえかたそだてかた」の方がいいと思っております。</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>ほかにございませんか。</p>
<p>日程 4 議第 1 号 (小学校特別支援学級)</p>	

今宿 教育長	<p>今回は、今までの教科書にあまり扱われていなかった災害等の記述が多いものが選ばれていますが、そういった観点で見ていただき、ご意見いただければありがたいと思います。</p>
西村 委員	<p>3つの教科のうちの地図につきましては、新しい地図ということですが、しかし基本的な考え方というのは何も変わってないと思いました。あとの社会と保健とは考え方をがらりと変えられたのかなという印象を私は持ちます。</p> <p>特に社会は、今まで「歴史」についてわかりやすく書いてあったが、それではなしに「公民」的というか、今暮らしている世の中で自分に関わることとか、将来かかわってくるものがたくさん書いてある。そういう意味では全然違う。それが子どもの自立と社会参加に焦点を当てて、それに決めようという研究グループの方のご意見でございましたし、私もそうだなと思いながら聞かせていただいたところです。</p> <p>保健につきましても、オーソドックスな人間の身体の仕組みが書いていたものが、「安全」と、これも全く今までとはスポットの当て方を変えられたなと思ひまして、それはその変えるだけの今日の状況があるのだなと思ひました。また、支援学級の人たちがこれから社会に出ていくうえで必要なことを学んでもらおうと、現場の先生が考えられたのだなと思ひまして、私はその提案に賛成する立場でございます。</p>
高橋 委員	<p>私、十分理解できていないところがあるのですが、14ページと18ページと20ページですか。</p>
山添 参事	<p>14ページにおいては6年生の社会科、17ページにおきましては4～6年生が使う地図、20ページは3・4年生の保健です。</p>
高橋 委員	<p>その中から6年生だったら今2冊あがっているわけですね。</p>
今宿 教育長	<p>ジャンルをちょっと今回触られた感じですね。</p>
高橋 委員	<p>歴史、とりわけ日本の歴史をどのように取り扱うというのか、どんな観点で見ていくかというのは、研究者の中でもいろいろな立場があろうかと思ひますけれども、それを乗り越えて、義務教育の中で一番ふさわしい歴史観というか、それは一緒でないといけないと思ひます。そのために学習指導要領で規定されていると思うのですが、『よのなかの図鑑』</p>

	と、今パッと見たのですが『絵で見る日本の歴史』は、スタンスが違うのですか。
山添 参事	はい。
今宿 教育長	<p>どちらかという、古代から現代までの絵ですね。古代の絵、中世・近世、そして現代の、絵本ですね、これは。いわゆる日本史・世界史に残るような事柄が書いていたり、人物が書いているというものではないです、現行のものは。</p> <p>現行本にはいわゆる公民的な考え方のものがなかったもので、将来就労するために学ぶべきものが記述されているものが今回選ばれました。</p>
高橋 委員	教育長がおっしゃったのは、今流行りの言葉で言うとキャリア教育、学年に相応のものが取り入れられているというふうに見たらいいわけですね。わかりました。理解しました。
今宿 教育長	<p>自立と社会参加というのはよく言われますね。</p> <p>ありがとうございます。それでは、よろしいでしょうか。</p>
	日程 4 議第 1 号 (中学校 特別な教科 道徳)
今宿 教育長	各社それぞれに工夫が凝らされているところでございますが、総合的に判断して日文ということです。
西村 委員	日本文教出版ですね。
高橋 委員	<p>23 ページのところ、8社の観点別評価が出ていますね。①は「図書の内容が学習指導要領に示された目標および学年の発達段階に即応しているか」ということですが、検定は通っているとはいえ、この間の時に私も言いましたけれども、学習指導要領、最終的には道徳性を養うということを目指しているわけです。</p> <p>とはいえ、発達段階の中でこういうふうになると、8社の中で観点別評価はかなりCが多かったということですね。</p>
今宿 教育長	A・B・Cの基準も教えてください。
山添 参事	Cというのは「よい」、検定に乗っている時点でよいというか、普通

	<p>です。さらによいのがB、スペシャルはAです。</p> <p>Cについては、1項目について、学習指導要領に示された目標に即応しているかということです。</p>
高橋 委員	<p>それで普通ということでしょうか？</p>
山添 参事	<p>はい。</p>
西村 委員	<p>私は道徳という科目を全く受けたことがない、そういう年代の人間でございまして、教科書の展示場（近江八幡市・甲賀市）へ合計3回ほど寄せてもらって現物を見てきました。また、検定の経過を見たいなと思ひまして、神戸ののじぎく会館へ1日かけて見に行きました。</p> <p>道徳の教材というのは山のように今の世の中にはあるわけございまして、日常、自分の身の回りにもあれば、政治経済、社会、いろんな動きがある中で、道徳というところにスポットを当てて考えるなら教材はいっぱいある。</p> <p>そういう意味ではあふれているという感じがするわけですが、しかし、学習指導要領をもとに教科書となってまいりますと、例の22の徳目というか、学ぶべき項目があつて、その徳目に相応しいストーリーの教材をダイレクトにくっつけてくるために、そのことに無理があるように思われるものもありました。1つのストーリーがあつて、それをいろいろな角度で見えていくと、様々な道徳的な考え方に発展すると思うのですが、そうではなくて1つの徳目に1つの教材を無理やり当てはめているようなイメージ、どうしてもそうなってしまうわけですね。今回の教科書をつくっていくうえでは、もうそれしか仕方がないのかなと思ひました。</p> <p>私のような素人が見ますと非常に窮屈だなという思いがするのと、無理やり、本来のストーリーのある部分を変えてしまうことで、その物語の歴史的な背景が失われてしまうような例もあり、気になりました。例えば杉原千畝さんの外交官の物語、なぜあの方が本当に苦しまれたのかという根本のところ、理由があるわけですが、それをわざわざ今の中学生には難しすぎるから、やさしい言葉に変えて1つの教材がつくられたということですね。いろいろなことを考えますと、なかなか難しいと私としては思ひました。</p> <p>①の観点別評価でBとなっているところは、それなりの工夫をして、新しいものを入れてくるとか、あるいは1つのものがあつてももう少し</p>

	<p>発展的に工夫されている部分があるのではないかということについては、専門の研究の方の代表の方のお話を聞いていて、納得したわけです。</p> <p>日本文教出版が最終的に採択をされたのですが、私はこの教科書は非常に親切過ぎるなというイメージを持ちました個人的な意見で恐縮なんです、ノートが別にあって、書き込むようになっています。非常に丁寧であるけれども、かなり誘導的ですね。本文もそうなんです、「学び方」と書いてある。この教材に関してはこういうふうに論議を進めていきたいと思いますと誘導していますね。だから、本当にみんなが自発的に考えて論議する道徳だと言いながら、その重要なところを誘導してしまっているのではないかなという思いをせざるを得なかったというのが正直なところでございます。</p> <p>私自身は別の会社のものの方が魅力的だなと思ったのは、そこまでの押しつけ、踏み込みがなかった。しかし、よくまとまっていたなと思って、私は東京書籍の『新しい道徳』の方がいいのではないかなと個人的には思っていたのです。しかし、最終的な協議会での決定は、現場の先生方の授業を進めていくうえで「進めていきやすい教科書」と思われた「日文」となりました。「日文」は、非常に微に入り細をうがった、痒いところに手が届くようなものとなっています。</p> <p>高橋 委員</p> <p>関連して、今ご意見をいただきましたけれども、私は教える立場、昔のことを思い出しながら、例えば日本文教出版社、後ろにこういうのがついていますね。何を考えたらよいかとか、今の子どもたちは、何を考えたらよいかを考えるということが難しいのですよ。今の子どもたちには、何を考えたらよいかということがここに書いてあるということは、いいことだと私は思います。そこから出発するのですよ、そこから議論がいくのですよね。</p> <p>だから、教える側からいうとそういうふうに、1つの筋書きみたいに見えないこともないのですけども、そういう中で言葉、議論するというところに近づいていくのだらうなというところが、ほかとちょっと違うのかなと思っています。</p> <p>教える先生側からすると丁寧すぎるかなというご意見もありましたけれども、現実からすると、それが一番ふさわしいのではないかなと私は思いました。</p> <p>今宿 教育長</p> <p>確かにノートの扱いについてはいろいろなご意見がありまして、逆にそういう手引きが指導の過程をしぼるというようなご意見もあったの</p>
--	---

山添 参事	<p>です。</p> <p>ただ、若い先生もずいぶん増えているので、一定のしっかりした観点で考えさせることも必要で、このノートはよく練られたものになっているという声がありました。</p> <p>ノートがついているのは〈あかつき〉と〈日文〉の2社でした。ノートの扱いについては、限られた時間でそれを書くことに力が注がれて、本来自分の考えをまとめて議論するなどの授業が進めにくいとの声もありました。</p> <p>ただ、中に収録されている教材・題材を見ると、「力のある教材」というふうな言葉で表しますが、長く読み継がれてきて、この価値をこの教材で進めるのにはとてもいい教材があるのですが、それが日文には多く収められているという意見でした。</p> <p>確かに西村委員さんがおっしゃったように、その1冊をつくるのに価値を当て込むというか、これでこのことを考えるのかと思うような内容の教科書もありますし、その意味では日文と東書が内容的にはいいものが入っているという意見でした。</p> <p>その8社すべてに扱われている教材というのが、『2通の手紙』です。それがいわゆる「力のある教材」ですけれども、それがどういうふうに扱われているのか、またどんな発問になっているのかという観点で見たときに、日文のものが優れているという、そこで差別化ができたという報告がありました。</p> <p>付箋が貼ってあるところを見ていただくと、青い付箋が貼ってあるのが、8社すべてに共通している『2通の手紙』です。1つのものには「元さんと」ということがついているものがありました。その内容は、定年退職後に動物園に再就職した「元さん」という主人公がいて、その主人公が、姉と弟がやってきてもうじき入園終了にギリギリだけれども入園させるわけです。そして2人がなかなか戻って来ないので職員が探したら、池のそばで2人が遊んでいるのを見つけます。そのあとに元さんに2通の手紙が届き、1通はその姉弟の母からの感謝の手紙、もう1通は停職処分の手紙が来ます。この2通から元さんは再出発する決意をします。動物園を去るということですが、その時の表情は晴れ晴れした顔だったというような内容でした。</p> <p>「決まり」って何かということを考えさせる教材でございます。この教材の中で調査研究としては、やはり発問がよく、そして子どもたちにグッと迫れるものは何かということ考えた時に、日文では、「元さん</p>
-------	--

<p>今宿 教育長</p>	<p>が初めて考えさせられたことは何か」というものでした。東書は「元さんが晴れ晴れとした顔で職場を去るのはなぜか」とか、学研におきましては「2通の手紙から元さんが思ったことはどんなことか」となっています。</p> <p>授業者としてグッと子どもたちに迫らせたい、考えさせたいという時の中心発問のよさというところで、日文に関してはほかのものよりも秀でていたということがありました。</p> <p>様々な観点で調査研究を進めていただいているのですが、1つの教材の扱いはどうかというのを8社調べてみた時に、価値の葛藤や心の揺さぶりが見られるかです。決まりを守らないのはいけないことだけれども、若い姉弟の願いをかなえてやろうと思ってしてしまったことについて、1通はお母さんから特別な配慮をありがとうという手紙、もう1つは管理的にきちんと決まりを守ってくれなかったから停職ですという、その2通が届いたというところです。</p>
<p>山添 参事</p>	<p>感謝の手紙に関しては、なぜ感謝だったかという、弟のお誕生日だったのです。動物園に行きたいけれども母は連れて行けないということで、入園ギリギリというか、終了時になって姉が弟を連れてきたと。入れてもらって子どもが喜んだということに対しての感謝の手紙であったということです。</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>そういう観点で見てください、先ほどのノートや吹き出しに書くこと、教材の内容、特に現代的な課題のいじめ・情報モラル、持続可能な社会の観点のものがどれだけ入っているかななどを、総合して日文が推薦されたわけでございます。</p> <p>それでは、本町において、滋賀県教科用図書第三採択地区協議会の決定に基づき事務局が提案しました内容で採択することとしてよろしいか。</p> <p>それでは、異議なしと認め、「議第1号 平成31年度使用小・中学校特別支援学級教科用図書および中学校（特別の教科 道徳）教科用図書の採択について」は提案どおり承認することといたします。</p> <p>それでは、次に「議第2号 財産の取得について（図書館システム電子計算機器類）」を議題とします。事務局から提案説明を願います</p>

	日程4 議第2号
今宿 教育長	ご意見、ご質問がございましたら、お出してください。
高橋 委員	初歩的な質問ですが、図書館で電算を入れておられることは当たり前のことと思いますが、今更新されるということは容量が増えることと思います。これを動かすにあたって、この電算はどのような業務を行うのですか。
高浪 館長	今回の更新の理由につきしては、機器類の保守期限が過ぎていることと、今ウインドウズ7で基本的システムが動いているのですが、ウインドウズ7の保守期間が終了していますので、新しいウインドウズ10で動くシステムにしたいというのがまずあります。それから、パソコンシステムを使う一番の理由は、まず蔵書管理、それから貸し出しに関する利用の管理が主になっております。今使っていますものはオンプレといって本体を図書館において使うやり方ですけど、容量が多くなってというよりはウインドウズ7の保守期限が切れたことと機器類・ハード類の保守期限が過ぎているという2点です。
西村 委員	先ほどのご質問の重なる部分があるかもわかりませんが、クラウド型を採用されるということですか。
高浪 館長	いえ、クラウド型にしたいと希望していたのですが、予算的な面や内容からして、図書館の中に本体を置く形で提案の会社にしたいということで、提案させていただいております。
西村 委員	わかりました。もう1つは、今回の更新によって、図書館を利用する側から見たらどういうメリットがあるのでしょうか。
高浪 館長	今回はホームページを今よりももっと親しみやすく、使いやすいような形にしていきたいと考えています。具体的にはこれから決めていくということですが、ホームページで図書の検索をしますと、例えば本の表紙の写真が出て、どんなものかイメージして探すとか、目に障がいがある人もわかりやすいような文字を使ったりとか、全体の色調を変更したり、あるいは、図書館で今まで新聞記事索引をつくっていますけれども、そういうものをホームページで公開できるようにするとか、図書館でお知らせをつくるにあたって、現在は少しややこしいやり方をしないとか

	<p>めなんです、今回は例えばワードで打ったものをすぐに載せられるようなシンプルな形で、いろいろな情報を発信できるということで提案を受けております。</p>
西村 委員	<p>ありがとうございました。</p>
今宿 教育長	<p>ほかにご質問ございませんでしょうか。</p> <p>それでは、異議がないと認め、「議第2号 財産の取得について（図書館システム電子計算機器類）」を提案どおり承認することといたします。</p> <p>次に、「議第3号 平成30年度日野町一般会計補正予算（第2号）（教育費）について」を議題とします。事務局から提案説明を願います。</p> <p>~~~~~</p>
今宿 教育長	<p>日程4 議第3号</p> <p>ただいま補正予算に係る提案説明をいたしました。ご質問等ございましたらお願いします。</p>
高橋 委員	<p>予算関係のことは私なかなかわかりづらいのですが、ごくごく一般的に考えますと、年度末に議論をされて、次の年の新年度の当初予算を組まれますよね。そこで十分に議論されたうえで、こういうものが要ということで、今平成30年度が始まりまして8月、その中でそれぞれの項目でかなり大きな補正がありますね。皮肉ではないのですが、これは当初予算の時に十分議論できてなかったという証拠なんですか。あるいは町税がその時にはどれだけ入るかという見通しが甘かったからですか。</p>
望主 次長	<p>当初予算につきましては、普通は1月・2月に編成させていただいて、そこで平成30年度の予算が確定してまいります。平成29年度において財政調整基金を取り崩して予算を編成させていただき、例年は基金の繰り戻しをするのですが、平成29年度は返せなかったという、ものすごい大変な時期だったのですが、そのような中で一応29年度の決算を終えました。</p> <p>ただ、決算を終えますと当然、不用額とかいろいろなもので少し繰越金も決まってまいります。それとあと、法人税の関係も、各企業さんによる決算時期も違ってまいりますし、またその中で、業績が上がってくると平成30年に納めていただく法人税の関係も上方修正がございま</p>

すので、その中で30年度に見込んでいた法人税も少し上向きになるのではないかと、そのようなことも平成29年度の決算以降にわかってまいりますので、その辺を30年度の補正をするときに、平成29年度から30年度への繰越金と上方修正した法人税の関係などが現在固まってきた関係で、9月補正のタイミングでさせていただこうというのが財政の思いでございます。

見込みが甘かったのではなくて、景気が上向きになって、法人さんの業績が上がってということを考えている中で、今回少し大きな補正になったと聞いております。

当然、法人税が増えるということは、また平成31年度につきましては地方交付税が減るという現実もあるのですが、法人税が増えた中で、少し教育関係や今までから要求してできなかった部分を、その法人税の増収の中で見込んでいったらどうかというふうなお話でございますので、今回このような、年度途中ではございますが、大きな補正になったということでございます。

また、法人税が上方に向かった中で、12月に補正をしても、工事をしようということは物理的に無理ですので、タイミングとしては、9月の補正で確立させていただいて、あと半年で整備をしていくと、それが順当かなというところもございまして、財政の方でこのような予算編成をしていただいたということでございます。

教育委員会としては、各小学校・中学校にプロジェクターの設置や教育振興に向けた整備をしていただくことが大きなことと、今は住民の方が洋式トイレをかなり望んでおられますので、図書館と公民館を含めてさせていただくということで、大変ありがたいなと思っております。来年は交付税が減るので、またそれは1つの大きな減収になるので課題になってくると思いますので、それはそれとしてまた考えていくということです。

また学校教育課もそうなんですが、全体に税収が落ち込んでいることでもございまして、民生費の扶助費的なお金は絶対出ていきますので、その中のバランスからいけば支出は抑えていかなければなりませんので、町としては平成31年度に向けては5～10%を支出を抑えた中で予算編成をしていくということで、聞いております。そのことのヒアリングを総務課がされることになっております。

高橋 委員

ありがとうございました。

<p>今宿 教育長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>~~~~~</p> <p>教育長 経過報告</p> <p>なし</p> <p>~~~~~</p> <p>日程4 経過報告 質疑</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>以上経過報告がございました。ご質問等ございましたらお出しください。</p>
<p>山田 委員</p>	<p>夏休みのチャレンジ教室に対して、要望が2件ほどあったので報告させていただきます。西大路小学校は、毎年、NHK合唱コンクールに出場します。ちょうどこのチャレンジ教室が開催される時期に合唱の練習をしますので、チャレンジ教室に出にくいなという声もありました。</p> <p>もう1つ、8月後半に開催されても面白いのではないかという声がありました。新学期に向けての学習のリズムを取り戻す一つの手段になるという声もありましたので、ご報告させていただきます。</p>
<p>今宿 教育長</p>	<p>ありがとうございます。チャレンジ教室に参加したいというお声ですね。また参考とさせていただきます。ありがとうございます。</p> <p>ほかございませんでしょうか。</p> <p>~~~~~</p> <p>日程6 今後の予定</p> <p>質疑なし</p> <p>~~~~~</p> <p>日程7 その他</p> <p>以上を持ちまして、8月定例会を終了します。</p>